



令和4年5月6日
富士市立須津小学校
学校だより（5月号）

子ども同士のつながりを大切に

校長 望月 秀一

五月に入り、さわやかな五月晴れの日々が続いています。朝、正門等で挨拶をしていると元気な挨拶が返ってきて、清々しい気持ちで一日が始まります。保護者の皆様には、コロナ感染防止に向けての取組に、ご理解とご協力いただき感謝申し上げます。子どもたちが元気に学校生活を送ることができますよう、毎朝の検温、体調管理等引き続きお願いいたします。また、朝、体調がすぐれないときには、無理をせずに家でゆっくり休んでください。よろしくお願いいたします。

4月の子どもたちの姿から、たくましさを感じる場面がたくさんありました。係の仕事として、牛乳パックを仲間と一緒に片づける姿や配達係でノート類を素早く配る姿など、自分の仕事に張り切って取り組む姿が見られました。また、委員会活動もスタートして、下級生のために委員会の仕事を通して学校生活をよりよくしていこうと頑張る姿に頼もしさを感じました。さらに、毎朝、正門などの掃き掃除を続けるなど、子どもたちが意欲的に取り組む姿に成長を感じています。

昨年度の子どもたちの実態から、私たちがたくましくなったと感じていても、子どもたち自身がたくましくなったと自覚できていなかったり、自分に自信がもてなかったり、成長を実感できていない場面が見られました。そこで、今年度は、朝礼や様々な場面等で子どもたちにたくましく成長している姿を示しながら、子どもたち自身が自分のやっていることよさに気付いて、さらに頑張る意欲がもてたり、自己肯定感が高められたりするように声を掛けていきたいと思ひます。



右の写真は、6年生が1年生に牛乳パックの開き方を教えている場面のもので、6年生が優しく1年生に声を掛けると、1年生は何度も頷きながら自分も挑戦していました。この光景を見ていて、私は心が温まり嬉しくなりました。学校生活で一番大切なことは、子ども同士や子どもと教職員が温かくふれあう中で学びが生まれ、人のぬくもりを感じたり、互いに認め合ったりしながら成長していくことだと思います。6年生に聞いたところ、自分たちも1年生の時には6年生に優しく教えてもらったことを思い出したようです。その積み重ねの中で学校の伝統が築かれていきます。このように人と人が関わる中で、人のよさを実感することや、互いに支え合って生きていくことの大切さを学ばせていきたいと思ひます。

今年度は、本校が明治5年に寺子屋での教育が始まってから、創立150周年の節目の年になります。右の写真は、明治10年5月頃の「湖頭舎」です。学校だよりの「湖頭」も校舎名が由来であるようです。子どもたちには、毎月の朝礼を通して、写真を見せながら150年の歴史を学ばせていきたいと考えています。



31日には運動会があります。学級づくりを目的として、元気に活動する姿を参観していただきたいと思ひます。練習をしていく中で、熱中症にならないように水分補給をしながら取り組んでいきたいと思ひます。タオルと水筒の用意をお願いいたします。子どもたちが頑張れるようにご支援をお願いいたします。